

仙臺二日

倉橋生

十月七、八兩日に亙る仙臺の全國幼稚園關係者大會は、極めて盛會であつた。私は主催側の豫めの準備を、當日の幹旋との、容易ならざる苦心に、深い敬意と謝意を禁じ得なかつた。たゞ、此の計畫の眞の中心であつた仙臺市保育會長澁谷仙臺市長が病氣のため、會場に臨まれなかつたことは、最も遺憾であつた。會は満場一致を以て、同會長邸にお見舞ひの代表者を送つたし、私も亦、同邸を訪ふて敬意を表したが、會長もしても、親しく此の盛會を見ざることを遺憾させられた。しかも會長代理としての高橋市助役の議長振りの巧妙さは、全會員の感嘆せるところであり、會議の滞りなき進行は一つに、名議長の力によつたといつてよい。但し二階堂市學務課長、加藤市視學、石川校長、その他、保育會幹部の内部的努力の大であつたことは言ふまでもない。

全會員の熱意、之れ亦實に快いものであつた。相當活潑なる發言、討論を大太鼓として、全體のなごやかな階調は、

一つの立派なシンフォニーでもあつた。殊に、研究發表は、一つ／＼傾聴すべきものであり、わけても、保姆諸君の眞摯なる研究發表こそ、此の會の貴重なる内容をなしたといつてよい。たゞ、遠慮なき所感を許されるならば、東北地方色の濃い問題の少なかつたことは、少々物足りなかつた。全國的會合として、必ずしも地方色に偏すべきではないが、折角く初めて東北に開かれた保育大會として、之れは私だけの物足りなさではあるまい。その間、青森幼稚園の今きよ氏の雪國幼稚園の工夫に就ての發表は、最も貴重なるものであつた。

但し、地方色の濃くなかつたのは、考へて見るに、その大きな理由となるものがあつたのである。それは、地方感なきを超越する現下の時局が、その大なる意識を以て、全體を支配してゐたのであつた。すなはち、平常保育問題以外、時局に即する保育問題が、會の主要部を占めたのであつた。之れは素より、然かるべきことであつた。

さて、此の大會によつて、將來に豫約せられた二つの事項がある。一つは、通常は四年後に開かるべき、次回の全國幼稚園關係者大會が、皇紀二千六百年を祝して、來年即ち昭和十五年に於て開かれることである。その主催は關西聯合保育會、期日は五月乃至六月、開催地は檀原といふことになつた。その盛觀期して待つべきを思ふのである。豫

約の二は、仙臺市保育會の提議に基いて、全國的保育聯盟の結成を進めるために、東京に於て先づその準備に當るさいふこじであり、委員會の結果、東京側出席者は、全會の依任を受けることになつた。之れはなか／＼容易のこじではないやうであるが、その成功を希望して已まない。

會議の他、第一日に於て仙臺市内見學の案内、市長招宴席上の地方舞踊、第二日の松島、鹽釜の廻遊等、懇切なる接待に到らざるなく、我等は皆滿腔の謝意を以て、仙臺二日の秋晴を浴びたのであつた。私は依囑によつて、短い講演を試みたが、壇に登つて、先づ感慨にたえない語つたものは、今日、二千を越ゆる全國幼稚園數が大正四年此の全國幼稚園關係者大會の第一回を東京に開催した時、六三三に過ぎなかつた思ひ出であつた。

帝國の幼稚園に益々飛躍的進展のあらんこじを。

さて、土地は仙臺である。幼兒の愛育者の集りである。さうしても、名保母政岡の禮讚が語られなければならぬ筈である。私も講演の中で是非それに觸れたいと思つてゐたが、會議題の豊富のために、講演に豫定せられてゐた時間が半分に壓縮され——それは却つてよくもあつたけれど——政岡の保育に敬意を表する時間の無かつたのは、一寸遺憾であつた。政岡の名は、たゞもう烈婦さいふこじで覆はれてゐるが、それは、あの時の四邊の情勢に對する覺悟の點であつて、幼君鶴千代に對する態度は、一つに之れ懸

切周到腰々たる保育者であつたのである。藩侯の若君さまさいふ點では、一念忠節の心であつたのではあるが、自ら手振りして雀の歌を唱歌し、雀を集めて觀察し、幼兒千松と共に嬉戲せしめたのは、幼兒保育に他ならない。殊に自ら米を炊いで給食のこじにまで當つたのは、普通の幼稚園の保母諸君の及び得ざる貴い生活保育である。芝居の舞臺に參觀する、あの日の保育は、甚だ悲痛に過ぎ、保育以上の深酷感を以て、われ／＼を壓倒するが、その烈婦的態度のみが、政岡ではない。一般の觀客は、節義政岡の心強さのみに傾倒するが、私なごは、保母政岡の心もちのやさしさを泌々ご惚ぶのである。又、ヘタ役者は、政岡のキツイまごころばかり表現して専らりきみかへるけれども、上手の役者は強い中の優しさを、巧に表現する。さうでなければ名優ではない。兎に角之れは外からの解釋を俟ち、役者の手腕を俟つまでもなく、幼兒鶴千代に尋ねてみれば、必ず分る事である。節義な烈婦ですかご聞いてみても、いゝえ、やさしい乳母じや、ごのみおつしやるに相違ないであらう。

わたくしは、仙臺市保育會が、大會席上で政岡を表彰しかつた事に抗議はしない。しかし、仙臺に集つた保母諸君が、殊に保育會から案内されて政岡の墓に詣でた保母諸君が、彼の女を幼兒保育者として敬仰して下さるごじ私ご同じでなかつたごしたら、聊か不満にたえないであらう。少くも若しさういふ人が幾人でもゐて下さつたら、政岡の郷土での保育大會に一段の意義があつたさいふものであらう。